

スケッチの説明

T、O、生

この圖は九月十五日行徳へ往つた時のスケッチである。江戸川

の堤上を歩いてゐる時、下の淺瀬で船を洗つてゐる景が目に入つた。堤は高さ

一間ばかり、上から見下したゝめ河の幅

が廣く見え位置の工合が圖案的で面白い

と思つたから寫生をした。時は朝の十時

頃で、遠くはうす靄に包まれてゐて、し

かも船にはやゝ強い日があたつてゐた。

寫した紙はワツトマン十六切で、輪廓は

只船の形と人丈である。最初に、極淡い

ヴェルミリオンを全體に塗て、生乾きの

時、船の輪廓内丈殘して、空の色をコパ

ルトに少しのインヂゴを加へたもので

塗つた。白雲は、この方面にはなかつたが、

あまり單調であるから二三線殘して置た

それが乾いてから船をヴェルミリオンと

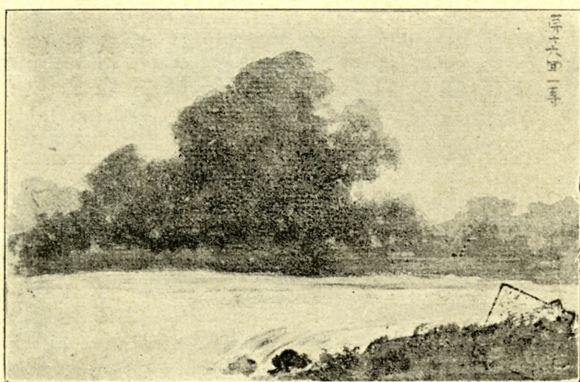
エローオークルで、目のあたつた色を作

つて描いた。人物の白いシャツは勿論最

初から援て置いた。次に遠景の森は、コパ

ルトとインヂゴを少し濃くして拵へた。それで森の形と水全

體とを塗つた。帆柱も竿も皆塗つた。水際の白線は此時殘した。



次に船の腹の暗い處、釘の跡、内部などを、インヂアンレッドとオルトラマリンを混ぜた繪具で描き、その淡いので砂地を作り、序に遠くにある舟も描いた。夫からインヂゴとテブル

スエローを混ぜて、森丈け上塗をした。森

は堤やら家やら少しは見えたが、殊更に

描かずに置いた。船の映つてゐる水の暗

い處は、インヂゴとブラオンピンクを

用ゐた。全體が乾いてから、帆柱や竿を

ホワイトの澤山混つたオレンヂ色でかい

て、波を作り、人物の頭の黒を入れ、遠

くの舟の竿をかき、かくて初めから三十

分程でこのスケッチが出来上つたのであ

る。

*

*

*

*

*

*

△『是を寫真にとるのですか』とは見物人のよく云ふ言だ妙な間だから何故そう思ふときいたら『一枚では詰りますまい』と答へた